

生活道路対策検討の背景

○生活道路対策について

- 国土交通省では、ビッグデータ(ETC 2.0データ※)の活用により、生活道路における速度超過や急ブレーキが発生している危険箇所を特定し、道路の安全性を高める対策に取り組んでいます。
- 宇都宮市は、栃木県内の自治体中、生活道路で発生した事故が最も多く、生活道路の事故の発生状況や地域からの要望を踏まえ、峰及び陽東の2地区を「生活道路対策エリア」としました。

※ ETC 2.0では、従来のETCの機能に加え、走行車両の速度や移動経路、急減速箇所等のデータを取得できます。

○峰地区・陽東地区の現状

- 平成26年～27年の2年間で、峰地区では9件、陽東地区では14件の交通事故(死傷者が発生した事故。物損事故を除く。)が発生しています。
- ビッグデータ(ETC2.0データ※)や現地点検の結果から、交通事故発生箇所以外にも、急ブレーキの多発箇所、抜け道としての利用が多い道路、走行速度が高い道路など、児童や地域の皆さまにとって危険な箇所が存在することが分かりました。

<現在の通行状況>



スピードを出した車両と歩行者・自転車の錯綜

ETC 2.0データより得られた課題箇所・区間

- 急ブレーキ多発箇所
- 抜け道として利用する車両が多い区間
- 走行速度が速い区間(平均30km/h以上)
- 事故発生箇所

対策分析検討図



この地図は、国土地理院の地理院地図に対策実施箇所等を追記して掲載したものである。

峰地区・陽東地区における これまでの取り組みと今後の流れ

参考資料2

○効果検証手法

実証実験の効果を検証するため、3つの手法で対策前後の比較を行いました。

(1) ビデオ調査(6箇所)

「①仮設ハンプ」「②仮設狭さく」を実施した5箇所、及び峰地区の「③歩行空間の確保(外側線設置)」を実施した箇所(一般部)にビデオカメラを設置し、通行する自動車や自転車・歩行者の挙動を確認しました。

■ビデオカメラ設置状況



※: 仮設ハンプ部・一般部においては、騒音/振動計を設置し、対策前後の騒音/振動を比較

(2) ETC2.0プローブデータによる分析

ETC2.0プローブデータを分析し、峰・陽東地区における自動車の走行速度や抜け道として利用する自動車を確認しました。

(3) アンケート調査(地区全世帯)

実証実験後の6月に、峰・陽東地区の全世帯(5,800世帯)を対象として、実証実験や今後の生活道路の交通安全対策に関する郵送配布・回収形式のアンケート調査を実施しました。

■実施状況

| | 峰地区 | 陽東地区 | 不明 | 合計 |
|-----|--------|--------|-----|--------|
| 配布数 | 3,732通 | 2,068通 | — | 5,800通 |
| 回収数 | 914通 | 493通 | 13通 | 1,420通 |
| 回収率 | 24.5% | 23.8% | — | 24.5% |

■アンケートの主な設問項目

- ・属性(居住地、年代、性別)
- ・実証実験の認知、通行状況
- ・通行手段別の通行速度、安全性
- ・今後の実施意向

■配布物件

・お願い状(A4-両面)



・調査票(A3横-両面)

